

WordPressテーマ SWELL、Cocoon、Lightningの比較分析：戦略的選定のための専門家報告書

第1章 エグゼクティブ・サマリー：テーマ選定の戦略的要約

本報告書は、WordPressの主要テーマであるSWELL、Cocoon、およびLightningについて、その経済モデル、技術的適応性、デザインの柔軟性、およびサポート体制を比較分析し、ユーザーの具体的な目的（プロブロガー、企業サイト構築、コスト効率）に応じた最適なテーマ選定のための戦略的な指針を提供する。

1.1. 比較分析の結論と推奨テーマ（目的別）

3つのテーマは、それぞれ異なる市場セグメントと設計思想に基づき開発されている。

- **SWELL（推奨：コンテンツ制作者、プロブロガー、メディア運営者）**：SWELLは、ブロックエディター（Gutenberg）への対応が「断トツに使いやすい」と評価されており¹、最高のコンテンツ制作効率と洗練されたデザインを求めるユーザーに最適である。買い切りモデルを採用しており、初期投資は比較的高いものの、その生産性の向上を通じて長期的にコストを回収することが期待できる。
- **Lightning Pro（推奨：企業サイト、ウェブ制作事業者、ビジネス用途）**：Lightningは無料版を提供するフリーミアム戦略をとり、有料拡張機能である『Lightning G3 Pro Unit』はサブスクリプションライセンス『Vektor Passport』に含まれている²。これは単なるテーマではなく、豊富なコーポレート機能と継続的なサポート体制を提供する「エコシステム」への投資であり、柔軟なビジネスサイト構築を重視する専門家やウェブ制作者に適している。
- **Cocoon（推奨：コスト重視の初心者、個人ブログ）**：Cocoonは基本機能のすべてが無償で提供される、非常に高機能な無料テーマである¹。予算が厳しく、SEOと基本的な機能を

優先しつつ、高品質なブログ運営を始めたい初心者にとって最適な選択肢である。

1.2. 3テーマのコアバリュープロポジション（USP）

各テーマの市場における独自の強み（USP）は以下の通りである。

- **SWELL:** 統合されたGutenberg体験と圧倒的なデザインの自由度¹。プラグインに頼らずテーマ単体で高品質な編集環境を提供する。
- **Cocoon:** 高品質な機能が無償で提供し、「無料テーマの中で最高のテーマ」¹として、個人ユーザーの参入障壁を極めて低く設定している。
- **Lightning Pro:** フリーミアム戦略に基づき、有料ライセンス（Vektor Passport）を通じて、企業・ビジネス用途に特化した豊富な機能拡張（VK Blocks Proなど）と、開発元による継続的かつ包括的なサポート体制を提供する²。

第2章 テーマのポジショニングと経済モデルの深度分析

テーマの選択において、初期費用だけでなく、ライセンス形態、アップデートの継続性、および複数サイトでの利用可否といった経済モデルを深く理解することが、長期的な運用コストを予測する上で不可欠である。

2.1. 価格体系とコストパフォーマンスの比較

SWELL：買い切りモデルの価値と生涯コスト

SWELLはプレミアムな買い切りモデルを採用している。具体的な価格は資料内には示されていないものの、市場におけるその評価（デザインの自由度が「段違い」¹、エディターUXが「断トツ」¹）に基づけば、有料テーマの中でも高価格帯に位置付けられることが推測される。

SWELLの最大の魅力は、そのライセンス形態にある。SWELLは100% GPLテーマであり、**購入者自身の運営サイトへの使用に関する利用制限が一切ない**⁴。この買い切りモデルは、特に複数のサイトを運営するプロブロガーやアフィリエイトターにとって、コスト構造の透明性と長期

的なコスト抑制を実現する。一度の投資で継続的なアップデート（新機能追加を含む）を受けられる点は、テーマの信頼性と生産性の基盤となる。

Cocoon：無料テーマとしての限界と優位性

Cocoonは、高機能でありながら基本機能がすべて無償で提供されるという点で、圧倒的な優位性を持つ。資料³にはサブスクリプション（月額990円/年額9,900円）や買い切り（19,800円）の情報がみられるが、これはCocoon本体ではなく、提供者側が提供するサポートや拡張サービスに関連するものである可能性が高く、テーマ本体の無償性は維持されている。初期費用を完全にゼロにしたいユーザーにとって、Cocoonは他に類を見ない選択肢である。

Lightning：フリーミアムとVektor Passportのサブスクリプション戦略

Lightningは、無料版（G3）と、有料拡張機能プラグイン（Lightning G3 Pro Unit）をセットにしたサブスクリプションライセンス『Vektor Passport』を組み合わせたフリーミアム戦略をとっている²。有料版の価格は、サブスクリプション方式で提供され、1年¥11,000、3年¥29,700、5年¥44,000のプランが存在する²。

ここで重要な点は、『Vektor Passport』が単なるテーマのPro版ライセンスではないことである。これは「お得なオールインワンライセンス」²と位置付けられており、テーマの拡張プラグイン（Lightning G3 Pro Unit）に加えて、VK Blocks ProやVK AB Testingといった複数のプラグイン、さらにはフォーラムサポート、オンライン学習サービス、開発中のβ製品のダウンロードといったサービス群を統合したものである²。これは、ユーザーがテーマ単体の機能ではなく、「ベクトルの提供する制作エコシステム」全体に対して投資していると解釈されるべき戦略であり、特に制作の専門家や継続的な学習・サポートを求めるユーザーに向けた設計となっている。この継続的な収益源が、開発者側にとってセキュリティ対応を含む継続的なアップデートの提供という形で、ユーザー側の安全な利用環境を保証する構造になっている。

2.2. GPLライセンスと複数サイト利用の法的・実務的解釈

3テーマすべてがWordPressコミュニティーガイドラインに沿って「100% GPLライセンス」を採用しており、テーマの利用自体に制限はない²。

しかし、実務上の利用においては、ライセンスキーの有無が重要となる。LightningのVektor

Passportにおいては、ライセンスキーを登録することで製品のアップデートやフォーラムへの質問投稿が可能になる²。ライセンス期間が終了すると、テーマやプラグインの利用自体は継続できるものの、セキュリティ対応を含む製品のアップデートおよびサポートが受けられなくなる²。これは、テーマ利用の自由度（GPL）と、ビジネス継続性の担保（サブスクリプション）のバランスを示している。

受託制作の場面では、GPLの原則により、1つのライセンスを複数サイトに使用することは技術的・法的に問題ないとされている²。これは、自身のウェブサイトや受託制作で納品するサイトなど、購入者自身が管理する複数サイトでの利用を可能にする²。ただし、制作会社がクライアントサイトにLightning Proを導入する場合、制作者が離脱した後もクライアントが直接サポートやアップデートを受けられるよう、**クライアント自身によるライセンス購入が強く推奨されている**²。これは、ビジネスにおける保守責任と安全性を確保するための実務的な配慮である。

以下に、テーマの価格体系とライセンス条件を比較した分析表を示す。

テーマの価格体系とライセンス条件の比較分析

項目	SWELL	Cocoon	Lightning (Vektor Passport)
価格モデル	買い切り（有料プレミアム）	無料（高機能フリーテーマ）	フリーミアム（有料拡張はサブスクリプション）
購入者による複数サイト利用	制限なし ⁴	制限なし	制限なし ²
有料ライセンスの価格（年額相当）	買い切り（市場価格）	¥0（本体）	¥11,000/1年～ ²
有料機能の提供方法	テーマ本体に内蔵	なし（プラグインで補完）	拡張プラグイン（Lightning G3 Pro Unit, VK Blocks Pro） ²
ライセンス切れの影響	製品利用は継続可能。アップデート/サポート不可	なし（無料のため）	製品利用は継続可能。アップデート/サポート/フォーラム投稿不可 ²

第3章 執筆体験と技術アーキテクチャの評価：Gutenbergへの対応

コンテンツ制作の効率を決定づけるのは、テーマのブロックエディター（Gutenberg）への適応度と独自の機能ブロックの使いやすさである。この点において、3テーマは明確な設計哲学の違いを示している。

3.1. ブロックエディター対応の哲学：SWELL vs. Lightning/Cocoon

SWELLの優位性：統合型カスタマイズとエディターUX

SWELLの設計哲学は「ショートコードからの脱却とネイティブGutenberg体験の最大化」である。SWELLは、WordPress標準のブロックエディターに**独自のカスタマイズを加えてプラグイン無しで対応している**、珍しい有料テーマである¹。そのエディターは「断トツに使いやすい」と高く評価されており、執筆のしやすさの総合評価は5.0/5.0という最高点を獲得している¹。

この使いやすさは、装飾の候補一覧がエディター右側にビジュアルで表示され、また装飾がエディター上でそのまま視覚的に表示される点に起因する¹。これにより、HTMLコードや独自のショートコードが表示されず、わざわざプレビューボタンを押して下書きを確認する手間が不要となる¹。コンテンツ作成者は技術的な負荷から解放され、コンテンツの質向上に集中できるため、プロのコンテンツ制作者にとって時間対効果（ROI）を最大化する設計となっている。

Cocoonの課題：クラシック環境への依存と安定性

CocoonもWordPress標準エディターに対応しているが、その開発の歴史的な背景から、旧来のクラシックエディター向けに設計された側面が強い¹。このため、ブロックエディター環境では不安定な印象があり、個人的にはクラシックエディター環境での利用が推奨される傾向にある¹。

Cocoonは無料テーマとして最高の機能を提供しているものの¹、ブロックエディター時代における設計の限界に直面している可能性がある。WordPressコアがFSE（フルサイト編集）へと移行する中で、CocoonユーザーはSWELLユーザーと比較して、将来的なデザイン変更や機能追加において、より大きな移行コストや不具合リスクに直面する可能性がある。

Lightning Pro (VK Blocks Pro) による機能拡張の評価

Lightning（G3版）はブロックエディターに対応している²。Lightningの哲学は、「コア機能はシンプルに保ち、高度な機能はプラグインで拡張する」というモジュラー設計にある。有料版の機能は、付属する「Lightning G3 Pro Unit」プラグインおよび、高機能版ブロックプラグイン「VK Blocks Pro」によって提供される²。

VK Blocks Proは、横並びボタン、ステップとタイムライン、目次、投稿リスト、ダイナミックテキストなど、非常に豊富なブロック機能を提供する²。この設計により、ユーザーは必要な機能だけを選択して利用でき、テーマ本体の軽量化が図られている。これは、特に受託制作において、顧客ニーズに応じた柔軟な機能の取捨選択を可能にする利点を持つ。

3.2. 独自の機能ブロックとコンテンツ装飾の種類

SWELLは、エディター上でのビジュアル表示に優れ、装飾の切り替えも容易であり、ブラウザ風やパソコン風の装飾など、新機能の追加を含むアップデートが頻繁に行われている¹。一方、Cocoonは機能ブロックの種類や記事の書きやすさでSWELLに劣ると評価されている¹。

Lightning Proは、VK Blocks Proの提供する高度な機能ブロックにより差別化を図っている。これには、企業サイトやLP制作に必要な複雑なレイアウトを可能にする機能や、ABテスト機能（VK AB Testing）などが含まれる²。これらの機能は、デザインの自由度だけでなく、ウェブサイトを「ビジネスツール」として活用するための高度な機能拡張を目的としている。

以下に、執筆体験とブロックエディター対応の技術的な評価をまとめる。

執筆体験とブロックエディター対応の技術的評価

項目	SWELL	Cocoon	Lightning Pro (G3 Unit)

エディターの哲学	統合型カスタマイズ (プラグインレス) ¹	クラシックエディ ター準拠からの移行 中 ¹	モジュラー拡張（プ ラグイン利用） ²
エディターの使いや すさ (評価)	非常に高い (5.0/5.0) ¹	標準的 (3.0/5.0) ¹	非常に高い（VK Blocks Pro利用時）
独自の機能ブロック の豊富さ	豊富（ビジュアル装 飾が強み） ¹	標準的	非常に豊富（VK Blocks Proの提供機 能） ²
独自機能のプラグイ ン依存	低（ほぼテーマ本体 内蔵） ¹	低	高（Pro機能は拡張 プラグインに依存） ²
アップデート頻度	頻繁（新機能追加を 含む） ¹	定期的 ³	定期的（ライセンス に紐づく） ²

第4章 デザインの自由度と適用可能なサイトタイプ

デザインの柔軟性は、ターゲットオーディエンスへの適合性、ブランド構築、および長期的なカスタマイズの可能性を左右する。

4.1. デザインカスタマイズの総合評価

SWELL：段違いの自由度と多様なデモサイト対応能力

SWELLのデザイン自由度は、他テーマと比較して「段違い」に高いと評価されており、総合評価は4.5/5.0である¹。SWELLで作られたデモサイトの例には、「カワイイ系」「カッコリしたコーポレート」「縦書きフォントの和風サイト」などがあり、特定のジャンルに縛られずに自在なカスタマイズが可能であることが示されている¹。このカスタマイズの深さと容易さの両立は、SWELLが特定のニッチに限定されない「オールラウンダー」として機能することを意味

し、ユーザーが途中でサイトの方向性を変更する際にも柔軟性を提供する。

Lightning Pro：ビジネス/コーポレートサイト向けレイアウトと拡張機能

Lightning Proの拡張機能は、ウェブサイトを経営ツールとして機能させることに特化している。Pro Unitを導入することで、ヘッダーレイアウト切り替え機能、ヘッダーの透過設定（今風のデザインに対応²）、コンテンツ幅指定機能、フッターウィジェットエリア数の拡張（1〜6カラムから選択）などが可能となる²。

特に、ビジネスに不可欠な機能として、ヘッダー上部への電話番号と問い合わせボタンの配置、グローバルナビゲーション下などに注目情報を表示させるキャンペーンテキスト機能がある²。さらに、「セクションベース設定機能」により、背景に色や画像を配置してもメインコンテンツエリアの可読性を損なわない白い背景（セクションベース）を指定できる²。これらの機能は、リード獲得やコンバージョンを重視するコーポレートサイトに不可欠であり、中小企業（SME）市場でのLightning Proの強固なポジショニングを裏付けている。

Cocoon：標準的なブログデザインからの逸脱の難しさ

Cocoonのデザイン自由度は、SWELLと比較すると中程度（総合評価 3.5/5.0）である¹。Cocoonは標準的な高品質なブログデザインの提供に優れているが、独自のブランドイメージを追求したり、企業的なデザインに大幅に変更したりするには、CSSの知識や追加の労力が必要となる傾向がある。

4.2. テーマごとの主要な拡張機能と差別化要因

SWELLは、高速化への対応や、他社テーマからのスムーズな移行を可能にする支援を提供している¹。Lightning Proは、レイアウトの柔軟性とビジネス機能に重点を置いている。具体的には、スマートフォン表示時の固定ナビゲーション、ヘッダースクロール時のレイアウト切り替え、Google Fontsに対応したフォント切り替え、豊富な見出しデザイン変更機能、404ページ書き換え機能などがPro Unitによって提供される²。これらの機能は、コーポレートブランディングとユーザーエクスペリエンス（UX）の最適化に直結する。

以下に、機能とデザイン自由度の詳細比較をまとめる。

機能とデザイン自由度の詳細比較

機能項目	SWELL	Cocoon	Lightning Pro (G3 Unit)
デザイン自由度（総合評価）	非常に高い (4.5/5.0) ¹	中程度 (3.5/5.0) ¹	高い（企業・ビジネス特化）
ターゲットサイト	ブログ/メディア/多様なコーポレート	個人ブログ/アフィリエイト	コーポレート/ビジネス/受託制作
ヘッダーレイアウト変更	豊富	標準的	非常に豊富（透過、スクロール時切替対応） ²
コンテンツ幅指定機能	○	○	○（Pro版で詳細指定可能） ²
セクションベース機能	○	-	○（可読性確保） ²
独自フッターカスタマイズ	○	○	○（コピーライト、カラー/背景画像指定） ²

第5章 テーマ移行と保守・サポート体制の評価

テーマ移行の容易さと、開発元による継続的な保守・サポートは、ウェブサイトの長期的な持続可能性を保証する上で極めて重要である。

5.1. テーマ移行の容易性

SWELLは、市場における主要テーマ（AFFINGER、Cocoon、Lightning、JIN、Diverなど）からの移行を支援する専用プラグインや詳細なマニュアルを提供しており、テーマ移行パスが非常

に充実している¹。この事実は、SWELLが既存ユーザーのブロックエディターに関する不満を吸収し、市場シェアを拡大していることを示唆する。特に、Cocoonユーザーがブロックエディターの不安定さからSWELLへ移行する際の円滑な受け皿となっている¹。

一方、Lightningは無料版またはG3環境からのSWELLへの移行作業に関する情報があることから¹、市場ではLightningからSWELLへの移行需要も存在することがうかがえる。

5.2. アップデート頻度とサポート体制の比較

SWELLは、頻繁なアップデートと新機能の追加が評価されている¹。これは、買い切りモデルでありながらユーザーの期待に応え、テーマの価値を継続的に高めるための戦略である。

Cocoonは、無料テーマとしては異例なほど充実したサポート体制を持っており、活発なフォーラムと定期的なアップデートが提供されている³。

****Lightning Pro (Vektor Passport)****のサポートは、単なる不具合対応を超えた「学習と制作のエコシステム」全体に及んでいる。Vektor Passport購入者は、付属製品のアップデート、フォーラムへの投稿、オンライン学習サービス（ベクトレ）での進捗管理、および開発中のβ製品のダウンロードが可能となる²。ライセンス期間に連動したこれらのサービスは、特にウェブ制作のスキルアップを目指すユーザーや、継続的な学習環境を必要とする企業にとって、高い付加価値を提供する。ライセンス切れによってアップデートやフォーラム投稿が停止するという仕組みは、サポート継続の重要性をユーザーに強調するビジネス戦略である²。

第6章 結論：目的別テーマ選定ガイドライン

本分析に基づき、ユーザーの目的、予算、および技術的スキルレベルに合わせたテーマ選定の具体的なガイドラインを提供する。

6.1. プロブロガー/アフィリエイト向け推奨

プロブロガーやアフィリエイトにとって最優先されるのは、記事の生産性、SEOへの配慮、およびデザインの洗練さである。

- 推奨テーマ: SWELL

- **理由:** SWELLが提供する「断トツ」のGutenbergユーザーエクスペリエンス (UX) ¹ と、特定のジャンルに縛られないデザイン自由度の高さ ¹ が、コンテンツ制作の速度と品質に直接貢献する。買い切りモデルであるため、多数のサイトを運営する場合の長期的なコスト効率も高い。

6.2. 中小企業（コーポレートサイト）向け推奨

中小企業や受託制作を行うウェブ制作事業者にとって、最優先されるのはサイトの信頼性、ビジネス機能の充実、および継続的なサポート体制である。

- **推奨テーマ: Lightning Pro (Vektor Passport)**
- **理由:** Pro Unitによって提供される豊富な企業向け機能（ヘッダー/フッターの柔軟な設計、ビジネス導線機能、セクションベース ²）は、ウェブサイトを経営的なビジネスツールとして機能させる。また、Vektor Passportのサブスクリプションによる継続的なアップデートと包括的なサポート体制は、ビジネス利用における安心感を担保する。

6.3. コスト重視の初心者/学生向け推奨

ウェブサイト構築の初期コストを最小限に抑えたいユーザーにとって、基本的な操作性と十分な機能は必須である。

- **推奨テーマ: Cocoon**
- **理由:** コストゼロで、活発なコミュニティと充実の基本機能 ³ を備えており、コストパフォーマンスは市場最高水準にある。ただし、将来的にGutenbergベースの高度なカスタマイズやFSEへの対応を求める場合、SWELLなどへのテーマ移行を視野に入れるべきである ¹。

引用文献

1. CocoonとSWELLの違いを比較。メリット・デメリットを経験者が ..., 10月 28, 2025にアクセス、<https://webrent.xsrv.jp/cocoon-swell-difference/>
2. 利用料金 | Lightning, 10月 28, 2025にアクセス、<https://lightning.vektor-inc.co.jp/pricing/>
3. Cocoon | WordPress無料テーマ, 10月 28, 2025にアクセス、<https://wp-cocoon.com/>
4. SWELLに関するよくある質問 | WordPressテーマ SWELL, 10月 28, 2025にアクセス、<https://swell-theme.com/faq/>
5. ライセンスについて | サポート - Vektor Web Solutions, 10月 28, 2025にアクセス

ス、 <https://vws.vektor-inc.co.jp/support/about-license>